

六四八五 「入斜」

體は以て虚實す、

六四八六

機は以て動靜す、

六四八七

機體の間は。性は水火を成す、

六四八八

體は山壑を成す、

六四八九

星辰は其の上に横して、而して其の行を衡從にす、

六四九〇

動植は其の下に立ちて、而して其の體を本末にす、

六四九一

山なる者は塊然の體なり、其の形を拗突にす、

六四九二

壑なる者は歧然の體なり、其の理を邪曲にす、夫れ

六四九三

物の成る所は。性は活して氣は運す、

六四九四

體は充ちて形は成る、

六四九五

氣は徒らに運せず。理に由りて運す。

六四九六

理なる者は。氣運の通路。理に隨いて氣を布き形を成す。

六四九七

大物 混然として圓を爲す者は、其の理の直を以てなり、

六四九八

合すれば則ち圓成す、而して直は其の中に立つ、

六四九九

分かてば則ち直理す、而して圓は其の表に成る、

六五〇〇

運する者は活の性なり、資りて始まる所 有り、

六五〇一

給して繼ぐ有り、故に

六五〇二

本は中に歸す、

六五〇三

中は外に之く、是を以て地は塊然たる一毯なり、其の氣は發収す、

(有と給の間に朱で所と書き入れあり。)

(PB 429)

六五〇五* 發收は代るがわる用して、一噓一噓す、

六五〇六 發收は圓に従う、

六五〇七 噓噓は直に従う、

六五〇八 噓噓に従いて南北の用を見す、

* 六五〇九一二 全物 上下は中外と伴う、而して能く圓を成す、故に之を下に資る、以て之を上を發す、

六五一三 地用は二にして相い闕く、

六五一四 面背は南北に於て更るがわるして、而して

六五一五 能く直を爲す、故に之を向う所に用う、

六五一六 以て之を背く所に廢す、

六五一六1 (復元) 一は則ち全す、

六五一六2 (復元) 二は則ち相い闕く、是を以て一體は必ず二用を爲す、

六五一六3 (復元) 故に同じく是れ一日行。以て經緯の行を分つ。

六五一六4 (復元) 經行は、或いは順行し、或いは逆行す、

六五一六5 (復元) 緯行は、或いは北行し、或いは南行す、

六五一七 是を以て一塊の大物。氣の資る所、圓は中外を有す、

六五一八 用の成る所、直は面背を分つ、

六五二〇 中外なる者は定位なり、能く其の處を定む、

六五二〇 面背なる者は變用なり、或いは面し或いは背く、故に

六五二一 其の緯に於て成る者は、半面を北と爲す、

(安永本より復元。)

六五二二

半面を南と爲す

六五二三

經に於て成る者は、半面を晝と爲す

六五二四

半面を夜と爲す

六五二五

其の一直の貫ぬく所は、端を兩極に於て露す

六五二六

一平の分かつ所は、界を中線に於て爲す、故に

六五二六 1 復元

日は其の道を側てて、而して一南一北す。

六五二六 2 復元

一極地 晝なれば、則ち一極地は夜なり

六五二六 3 復元

一邊境 夏なれば、則ち一邊境は冬なり

六五二六 4 復元

一面一背。晝夜冬夏代がわる行わる。

六五二六 5 復元

中界兩規。西轉東運。地は止りて動かす。將に東西する者を迎えんとす。

六五二六 6 復元

面 日の照を受けて以て晝と爲す

六五二六 7 復元

背 日の照を蔽いて以て夜と爲す

六五二六 8 復元

面背の間に立てば。則ち一以て旦を爲す、

六五二六 9 復元

一以て暮を爲す、故に其の體は則ちなり、

六五二六 10 復元

其の用は則ちなり、故に圓は中外を成す、

六五二六 11 復元

直は面背を分つ、夫れ

六五二七

地の一圓塊にして。萬物は環りて之に居る。

六五二八

氣は上を爲し、質は下を爲す、

六五二九

轉は外を爲し、持は内を爲す、此の故に

六五三〇

六五三一

六五三二

六五三三

六五三四

*六五三五―三六

六五三七

六五三八

六五三九

六五四〇

六五四一

六五四二

六五四三

六五四四

*六五四五

*六五四六

六五四七

六五四八

1復元

升る者は天に之く、

降る者は地に著く、

方を東西を以て定む、

位は上下を以て立つ、

東西は規に於て分る、

上下は直に於て分る、

身を北極下に置けば、

身を南極下に置けば、

背地は倒懸の若し、

中界は側立の若し、

轉環の間に。倒側

倒側の相い同じきは、

圓成れば則ち直は其の中

直立てば則ち圓は其の外

故に規矩を以て直圓を譬

直の地を持するは、車輪

輻の散ずること能わず、

而して圓なる者は直なり、

直なる者は圓なり、

則ち南地は背を爲す、

則ち北地は背を爲す、

是に於て

相い移り。

相い成るは。一用有るに由る。

體を一にするを以てなり、

圓能く直を成す、

圓能く直を成す、

矩能く規を爲す、

則ち

而して形は栗毬を爲す、

而して理は車輪を爲す、

而して

而して

而して

而して

(PB 430, I 449a)

六五四九

倚ること能わずして、盡とく軸に向うが如きなり、

六五五〇

直の天を承くるは、輓の中在りて、而して

六五五一

軸の 陥ること能わず、

六五五二

墊ること能わずして、齋しく輪を承くるが如きなり、故に

六五五三

天地を以て之を觀れば、氣上質下なり、

六五五四

己れを以て之を觀れば、頭上足下なり、是を以て

六五五五

轉なる者は通の體を露すの處、

六五五六

持なる者は塞の體を示すの處、一一の分るる所なり、

六五五七

通は持を隔てず、

六五五八

塞は轉を遺さず、氣物の合する所なり、

六五五九

一機 粲然として規を爲す者は、其の理の直を以てなり、

六五六〇

合すれば則ち矩 立ちて、而して規 其の外を成す、

六五六一

分るれば則ち矩 理して、而して規 其の動に範す、

六五六二

動なる者は運の露なり、

六五六三

守する所有りて止る、

六五六四

轉ずる所有りて循る、故に守は内を持す、

六五六六

轉は横を爲す、是を以て天は混焉たる一氣なり、

六五六八

其の氣は運轉す、運轉は互いに用す、

六五六九

一守一環なり、

(PB 431)

六五七〇*
 六五七一*
 六五七二
 六五七三
 六五七四
 六五七五
 六五七六
 六五七七

運轉うんでんは規きを爲なす、
 環守かんしゅは矩くを爲なす、
 運轉うんでんに從したがいて東西とうせいの用ようを見みす、故ゆえに
 天地てんちは靜せいにして、而しかして形理けいり直圓ちよくえんなり、
 轉持てんじは動どうにして、而しかして形理けいり規矩きくなり、
 天てんなる者ものは運轉環守うんでんかんしゅ、一平いちへい一いち直ちよくなり、
 地ちなる者ものは水燥すいそう土石どせき、一俯いちふ一立いちりつなり、

(書き下ろし後の加筆につき削除。)